

2022年6月17日

日本造血・免疫細胞療法学会  
移植認定診療科責任医師 各位

(公財) 日本骨髄バンク 医療委員会

## 生着確認用ドナー末梢血検体の取り違い事例 について

拝啓 日頃より骨髄バンク事業にご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。

本年4月、生着確認用のドナーの末梢血検体の取り違いがあったと移植施設から報告がありました。今回取り違いが生じた原因は不明ですが、末梢血検体の取り違いは、重大な問題となる可能性がありますので、注意喚起の観点から情報共有いたします。

各施設におかれましても検体到着時のドナーIDの確認および検査・保存までの手順について今一度、再確認していただきますようお願い申し上げます。

敬具

### <経緯>

#### 移植前

- ・採取施設に EDTA-2Na 採血管にドナー末梢血検体採取（2本）を依頼。  
用途：血液型確認用と生着確認用（HLA、性別一致の移植のため STR での生着確認を予定）
- ・採取施設 HCTC が末梢血スピッツに JMDP ドナーID のみを手書きしたラベルを貼付して準備し、病棟Ns と HCTC で確認（採取当日も病棟Ns が再確認した上で手術室担当看護師に手渡した）。

#### 骨髄採取当日

- ・採取施設では手術室にドナー入室後、麻酔用の末梢ルート確保時に末梢血を採取。  
採取終了後、骨髄液と末梢血検体を HCTC と採取担当医が輸血部へ持参。運搬者とともに確認し引き渡した。
- ・骨髄液と末梢血検体が移植施設に到着。末梢血検体にはドナーID 記載のラベルが貼付されていた。
- ・末梢血検体1本は移植施設で血液型確認を行ない、ドナーの血液型と矛盾はなかった。もう1本については採取施設貼付のドナーID ラベルを移植施設の外注検査提出用ラベルに貼り替え、外注検査に提出。
- ・検体量が十分あったため一部を DNA 保存。

#### 生着確認時

- ・増殖してきた成分の STR パターンがドナー検体として提出されたものと整合性がない、と検査会社から報告。
- ・院内に保存してあった DNA を用いた再検査も同様の結果であり、外注検査受付提出及び一部保存の前に、検体の取り違いが発生した可能性を否定できない。

<問い合わせ先>

(公財) 日本骨髄バンク 移植調整部

TEL 03-5280-4771 / FAX 03-5280-3856